

「乗って残そう！乗って活かそう！公共交通」

～ 路線バス再生計画について～

平成24年4月

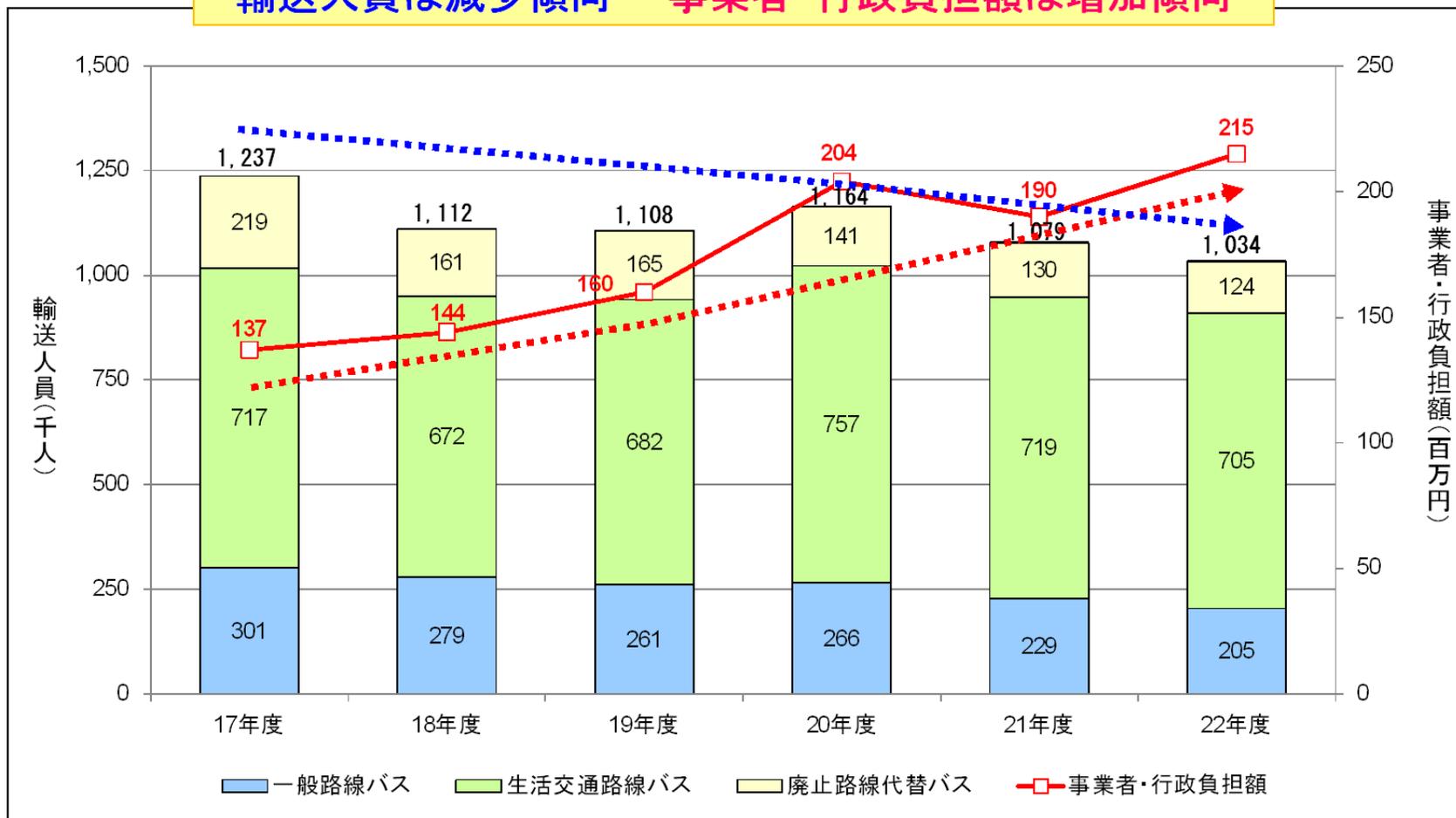
上田市 都市建設部 地域交通政策課

1. バス交通の現状と課題

- モーターゼーションの進展や道路環境の整備が進み、また人口の減少や少子化といった社会情勢の変化などにより、バスを中心とした公共交通の利用者は減少している。
- バス事業者が運行している路線は、すべて赤字で事業として成り立たなくなっている。
- 高齢化が進み、高齢者等の移動制約者が増加することが予想され公共交通の必要性は益々高まってくることが予想される。
- バス運賃が高額であることから利用を敬遠している状況があり、運賃負担軽減を求める意見も多い。
- 都市機能としてバス路線の確保維持は不可欠であり、確保維持にあたっては、多様な利用目的・効果を生む施策が必要である。
- 公共交通の主要な利用者である高齢者の外出支援・健康増進等を目的とした運賃低減策を進め、利用促進策を図る必要がある。

輸送人員等の推移

輸送人員は減少傾向 事業者・行政負担額は増加傾向



廃止路線代替バス: 西丸子線、豊殿線、傍陽線、祢津線、県道川西線、武石線、丸子線、中仙道線

生活交通路線バス: 真田線、佐久上田線、鹿教湯線、青木線

一般路線バス: 菅平高原線、信州上田医療センター線、真田自治センター入口線、塩田線、信州の鎌倉シャトルバス、室賀線

輸送人員の目標

路線の再編等により、住民に定着するまで若干時間を要するものと考えられるため、
3年後を目途に約2倍の輸送人員を目指す。

